

合言葉は

- ①ぼちぼち
- ②そこそこ
- ③できるしこ

第7夜

10月14日

取って良かった？「認定NPO」

第7夜は小森文子さん（認定NPO 法人山村塾 事務局職員）、小田哲也さん（認定NPO 法人箱崎自由学舎 ESPERANZA 代表）の法人事務の実務を担うお二人をお迎えし、「認定NPO」を取得する時、してから、どうだったのか具体的なお話をお聞きしました。聞き手は永田賢介（認定NPO 法人アカツキ理事・職員）です。

理事会からの提案が、出発点

八女市黒木町で都市と農山村を結び里山を守る活動する山村塾（さんそんじゅく）、福岡市東区で学校に行かない小中高生の居場所を運営する ESPERANZA（えすぺらんざ）。

どちらの団体も、事業収入だけでは賅えない領域の活動に取り組んでいるため、資金調達を悩んでいたところ、理事会から「認定NPO 法人を取得して寄付を増やしましょう」という提案があったそうです。



山村塾 小森文子

実在する人ですか？という質問

お二人とも認定申請の要件である3,000円×100人の寄付者名簿の整理は大変だったとおっしゃいます。特に現金でのご寄付の方については、住所や連絡先が取得できていなかったケースもあり、行政の審査では「この寄付者は本当に実在する人物ですか？」と問われ、そんなことを聞かれるんだ！と思いながら、根拠資料を探し、対応したそうです。

お金の影響と気持ちの影響

認定取得後、実際に寄付金は増えたのか伺うと、小森さんは「毎年少しずつ増えているが、認定をとったことが原因かは正直わからない」、小田さんは、「新規の寄付者というよりも、既存の寄付者の方が、年1回から年2回と増額して寄付



箱崎自由学舎 ESPERANZA 小田哲也

してくださるようになったケースが目立つ（寄付金控除で約50%近くが還付されるためと推察）」と回答。

加えて、他に認定をとって良かったこととしては「会員さんが非常に喜んでくれた」（小田さん）、「すべての書類が揃っていると自信が持てる安心感」（小森さん）と教えてくださいました。

認定NPO取得には、日頃の小さな事務の積み重ねが重要であり、その準備の負担は大きいとよく言われますが、同時に事務が仕組み化されることで、スムーズになる面もあるというお話は印象的でした。（白神 加奈子：アカツキ職員）

インターンの目！



認定をとることと寄付金については、団体と団体を支えている個人が注目している部分に違いがあるのかなと思いました。また、認定を取るために必要な書類を揃えたり整理をしたりするため、団体内部の整理にも繋がるということで、意外なところに認定を取るメリットがあって驚きました。

（ひろしー竹本 智尋^{ちひろ}：アカツキインターン）

編集・発行：認定NPO 法人アカツキ

<https://aka-tsuki.org>



【ご寄付のお願い】本事業は、完全に自主財源のみで行なっています。QRコードからご寄付いただくとありがたいです。